

2018年12月14日「産業界と若者の意見交換会」を開催しました

社会連携クラスター世話人

南 貴司 (京都大学)

矢治健太郎 (核融合研)

実用化戦略クラスター世話人

坂本 宣照 (量 研)

清水 克佑 (三菱重工)

<p>産業界と若者の意見交換会 報告 (広報サブクラスター/核融合炉実用化若手検討会) 2019年(令和元年)8月27日</p>	
	<p>核融合分野に携わる産業界への インタビュ―集計結果発表</p> <p>発行所 核融合エネルギー フォーラム 広報サブクラスター 核融合炉実用化 若手検討会 2019年 8月27日 (火曜日)</p>
	<p>核融合エネルギー フォーラム (http://www.fusion.qst.go.jp/fusion-energy-forum/index.html)</p>
<p>端技術・チームとしてのモノづくり</p> <p>二〇一八年二月十四日に、有楽町朝日ホールにて核融合エネルギーフォーラム主催によりイーター・ピーエー成果報告会二〇一八「人類の明日をのぞむ、核融合エネルギー」が開催された。それにあわせ、フォーラム内の委員会組織である広報サブクラスターと核融合炉実用化若手検討会が合同で「産業界と若者の意見交換会」を実施した。全国から大学院生、学部生あわせて二十八名の学生が参加し、成果報告会に併せて実施された核融合技術関連企業によるパネル展示において、企業と核融合開発の関係に関する複数の項目についてアンケートインタビュ―を行った。アンケートの内容は、企業が核融合開発に取り組む上で開発した最先端技術や、その技術の社会への波及例などについてである。また、核融合分野のやりがいや、どういった部下が欲しいかなど、学生にとって企業研究に繋がると思われる項目もある。学生が注目したのは、核融合研究開発における企業の最先端技術である。ダイバーターやブランケット、加熱装置に使用される材料や特殊な計測機器に対して強い関心を示していた。ソフトウェア開発やデータ処理技術の最先線にも触れられたようだ。また、イーターのファーストプラズマが六年後の二〇二五年頃に迫り、一方で国内の原型炉の設計活動が活発化する中、産業界が果たす役割にも少しずつ変化が生じつつあるようだ。長期に渡る大型プロジェクトを成功させるために、技術力を高め、継続的に維持する事に加え、研究開発における産学の連携をこれまで以上に強化する事も重要であるという点についても学べたようだ。この意見交換会に参加した事で、七割以上の学生が核融合関連企業への就職に対する興味が増したと回答しており、産業界が技術的未踏領域へ挑戦し続けている事や、極めて厳しい技術水準が求められる国際プロジェクトに大きく貢献している姿勢に強く共感した様子が伺えた。</p>	
<p>今回意見交換会に御協力頂いた以下の会社に御礼申し上げます。(順不同) 株式会社アムテックス、株式会社アライドマテリアル、株式会社アルゴグラフィックス、株式会社安藤・間ノ極東産業株式会社、株式会社化研、キヤノン電子管デバイス株式会社、京セラ株式会社、金属技術株式会社、ジャパンスーパーコンピュータテクノロジーズ株式会社、ゼネラルエン지니어リング株式会社、東芝エネルギーシステムズ株式会社、株式会社トヤマ、株式会社ZET、日本インテグラーフ株式会社、株式会社日立製作所、宝栄工業株式会社、三菱重工工業株式会社、三菱電機株式会社、大和合金株式会社 (文責：東工大 近藤正聡)</p>	
 <p>アンケートインタビューの様子</p>	